



園だより

平成28年4月8日・9日

佛教大学附属幼稚園

おしあげてくれた手

園長 藤堂俊英

暖かい春の陽ざしで名前を呼ばれた草や木が、それに応えるかのように一斉に花を咲かせ、ういういしい新緑を装う季節を迎えました。そんな季節の流れに歩を合わせ、新学期がスタートします。春休みの間、子どもたちの明るいにぎやかな声が消えた静かな園庭で、元気な子どもたちが戻ってくるのを待っているかのような遊具を見ていると、山本純子さんの「鉄棒」という詩を思い出しました。

だれもない 鉄棒を 遠くからみると
あのときの わたしが 逆上がりの 練習をしている
わたしのおしりを ささえてくれた手が
だれの手だったか もう 思いだせないけど
こどもながらに カいっばい おしあげてくれた 手があった
できそうにないなあ もう できなくてもいいや
うん できないこともある という思いまで
カいっばい おしあげてくれた 手があった
今でも できない やめよう と思うとき
なんだか もうしわけないような 思いがずっと 心をかすめるのは
あのときの手が できるよ と
わたしのおしりを ささえようとするからだ

手といえば、聴き手、語り手、働き手、担い手、話し相手、遊び相手というように、私たちはなぜか「人」を表すのに「手」という言葉を使います。忙しい時には「猫の手も借りたい」とか、困っている人には「救いの手をさしのべる」とか、病人には「手当をする」と言います。また何かをしっかりと理解することを、もともとは手でしっかりと掴むことを意味する「把握」と表現します。古代のギリシャでは、人間は動物界で最も賢いから手を持っているのだという見解と、人間は手を持っているから動物界で最も賢いのだという見解が あったようです。いずれにせよ、手は直立歩行をする私たち人間のみが高度に使いこなすことできる磨き上げた道具です。

しっかりとつかむ手、こぼさないように優しくすくう手、そっとなでる手、仲良くつなぐ手、握手する手、はげまし讃えて拍手する手、あたたかく支え押し上げる手、抱きしめる手……。長い進化の歴史の中で身につけたこのような素晴らしい手のはたらきを生かしながら、保護者の皆さんとともに、かわいいお子さんたちの背中を後押しして行きたいと思えます。

